参考資料２

産業振興条例検討推進チームからの意見

（市の産業の課題を聴取）

〇人材の確保（＋働き方）

- 仕事はあるが人がいない。募集しても集まらない。
- 人材の需給バランスが崩れている。
- 新卒は大企業との取り合いで６月中に枯渇してしまう。
- インターン経験者の初任給を上げることで人材の確保を行っている。（インターン経験者は戦力化が早いため、給与増の理由となる）
- 採用コストを考えると、早期離職のリスクが大きい。
- 中退共は転職すると積み立てがリセットされる。吉川市内の転職であれば、退職金の積み立てが続くような市内企業向けの退職金制度（吉川市版 401k）があれば、市内に引き止められるかもしれない。
- リタイアした高齢者を農業に派遣したい。ボランティアではなく経営に参画。
- 農業目線でいうと、ピンポイントで人材ほしい。例えば、ＡＭ・ＰＭのみ。天気仕事なので前日連絡で集まればうれしい。
- シニア世代の活用、老人ホームを託児施設へ。
- シニア人材バンク制度の確立。
- 女性の就業の妨げとならないよう託児施設の充実。

〇職住近接

- 企業においてもメリット。例えば、二交代での生産では、公共交通機関が使えないことも多い。そのため、市内居住者に補助金を出している。
- 農業的にもメリットあり。市内道路にも精通。配送車を路肩に止める時も地元の理解得やすい。

〇子供達への支援

- 地元に引き込む魅力。
- 教育基金の設立。企業が地域の子供を育てるという考え方。
- 子供に働いてほしいと思う企業となる。

〇チャレンジへの支援

参考資料２

- 「何でも支援する」は方向性が多すぎる。テーマを絞る必要がある。
- 市が受け皿となる何か（場所、食材、業種）を準備し、やりたい人が集まる仕掛けを作るのはどうか。
- 既存事業者による起業支援の例もある（起業ノウハウの提供等、既存事業者による支援など）。その支援の輪から広がる共存共栄の関係が理想。
- 「たまたま吉川で創業」を必然に変えるための仕掛けが必要。

〇農業の支援

- 農業志望者のマッチングの場所は農協か市役所に限られる。マッチングの機会を増やすことで、遊休農地を減らす。
- 農地の利用制限の中で遊休農地を有効活用できないか。貸農園のニーズは大きい。リタイア世代の趣味としても人気がある。あるいは、家庭菜園として農地付きの住宅販売ができないか。
- コメの生産調整は来年で終わる。価格下落の可能性あり。
- 消費者の顔・声が励みになる。
- ＪＡが絡まない直売所、例えば常設の朝市がやりたい。よしかわマルシェでのようなイベントでの直売ではない形がよい。
- 今後、農業は企業農家（ex イオン）と小規模農家に分かれると思う。吉川の農業は後者、なおさら直売所が欲しい。イオンのように大手スーパーが農業やったら、小規模農家はスーパーに卸せなくなる懸念がある。
- 吉川の農業は域内産業？域外産業？
  →農業者の回答は前者。例えば海外へ販路求めるにもベース（地元での安定した販路）が無いと困難。

〇その他

- 選択と集中。政策は全て手段であり、目的をはっきりさせる必要あり。
- 吉川のキャラクターづくり。「ＸＸのまち」というイメージを作るため、産業のカテゴリーを決めて支援する。→業種分類ではなく、ステージ（創業期 成長期 安定期・・・）ではどうか。
- シェアオフィスの設立。空き家を活用。
- 海外販路開拓(ex.ベトナム)の支援。
- なまずを観光資源とするなら、地震に強い安全な街を目指しては。（建築物などを

参考資料２

強固にする）

- 市内で農業、工業、商業の全てが満足され自給自足ができる。吉川市の農産物が市内で消費され、吉川市に住む人が市内で働く、という市内で完結する経済循環（市外に出なくてもよい、吉川市で生活ができる）が理想。
- 集客力を上げるための手段は口コミやコミュニケーションだけでは限界。
- 車社会からの脱却（公共交通網の整理）。
- ベッドタウンとして特化。吉川は不動産の価格、近隣市の商業施設、緑豊か、都内への通勤時間などベッドタウンとしての条件がそろっている。
- 人がいない、土地がないのであれば、現状維持。
- 産業振興を図り、企業を誘致すると他にベッドタウンが移るだけ。